

2. 橋梁等

(1) 基本的な考え方

橋梁等は、河川や谷津などの特徴ある景観と一体となって周囲から眺められる視対象となることが多く、そのものの形態・意匠や色彩が地域の景観を象徴することもあります。また、橋梁は、良好な景観を得られる場となることもあります。

そのため、橋梁等の整備においては、周辺の景観特性を把握し、橋梁が景観上どのような役割（視対象か、視点か、など）を持つのか検討した上で設計することが重要となります。

(2) 景観形成の方針とチェック事項

構想段階

- ✓ チェック 1: 景観形成方針を踏まえ、目指すべき施設の景観像を検討しているか？ (P31)
- ✓ チェック 2: 周辺の景観に対する影響を検討しているか？ (P31)
- ✓ チェック 3: 隣接地との連携による一体的な整備や良好な景観要素の活用を総合的に検討しているか？ (P31)



設計・施工段階

方針① 橋梁、水管橋、送水管の形態・意匠及び色彩は、周辺の景観に配慮し、圧迫感や違和感を与えないよう努める。

- ✓ チェック 1: 周辺の景観と調和する構造とデザインとするよう心がけているか？ (P32)
- ✓ チェック 2: 圧迫感や鈍重な印象を軽減するためのデザインの工夫をしているか？ (P33~34)
- ✓ チェック 3: 橋梁から良好な景観が得られる場合は、視点の場としての役割を考慮しているか？ (P34)

構想段階

✓ チェック 1 景観形成方針を踏まえ、目指すべき施設の景観像を検討しているか？

- ① 現地を踏査し、周辺環境や地域特性の把握に努める。
- ② 計画の対象としている橋梁等が景観計画に定める景観ゾーン・景観拠点・景観軸のどこに該当しているかを確認し、その方針を踏まえた景観整備の構想等を立てる。
 - ▶ 橋梁等が、地域の景観形成上の「視対象」、「視点場」、または両方の役割を持つのかを検討する。

✓ チェック 2 周辺の景観に対する影響を検討しているか？

視対象となる・ならない橋梁等

- ① 周辺及び橋梁等本体の景観特性を考慮してデザインを検討する。
 - ▶ 地域のシンボルとする場合（主役）／過度な主張を抑える場合（脇役）／目立たせなくする場合（背景）。

MEMO

■ 構造物の調和手法

（引用：「北海道道路デザインブック（案）」
/H22（独）土木研究所 寒地土木研究所）

	基本的な考え方	景観特性の例	デザイン方針の例
強調法	<ul style="list-style-type: none"> ● 構造物自体を風景の中で際立たせ、「主役」としての役割を持たせる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 構造物の規模が大きい ● 人目を引きやすい立地環境や構造形式となる ● 周辺の景観構成要素が少ない ● 地域にとって重要な意味合いがある構造物 	<ul style="list-style-type: none"> ● 構造物自体の美を追求する ● 地域のシンボルとして成立するデザイン
融和法	<ul style="list-style-type: none"> ● 構造物を風景に添えるように設え、「脇役」としての役割を持たせる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 重要な景観構成要素がある ● 目立つ要素が少ない構造物 ● 多くの人々から眺められる ● 人々の生活に密着する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 周辺環境と一体となる風景を創造する ● 構造物の姿を洗練させて過度な主張を抑える
消去法	<ul style="list-style-type: none"> ● 構造物を風景に埋没させ、「背景」としての役割を持たせる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 構造物の規模が小さい ● 重要な景観構成要素がある ● 視点場が少ない ● 自然環境が卓越する地域 	<ul style="list-style-type: none"> ● 元々の風景を保全する ● 構造物の姿を目立たなくする



▲旧街道に配置されたアーチ状の構造物が、地域のランドマークとなっている。【①】



▲橋梁が良好な視点場となっている。【②】

視点場となる橋梁等

- ② 橋梁等の周辺に保全または活用すべき眺めや景観資源があるかを確認し、これらの視対象への眺望を阻害しないシンプルな構造等を検討する。
 - ▶ 視点場は、誰もが眺めやすいところとし、そこからの眺望を考慮した設計等を行う。

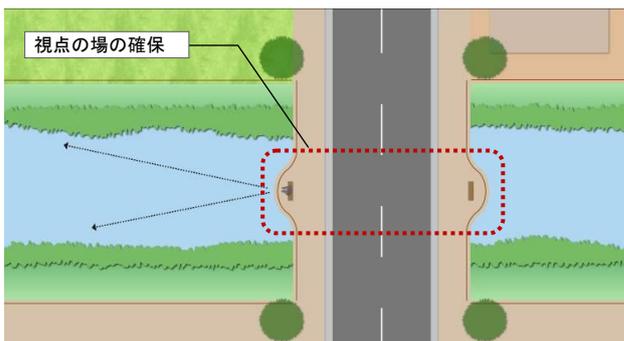
✓ チェック 3 隣接地との連携による一体的な整備や良好な景観要素の活用を総合的に検討しているか？

良好な景観の保全

- ① 多くの利用者等に利用され、周辺に特徴的な景観が得られる場所では、快適なスペースの確保や付帯施設の適切な配置を検討する。

ゆとり・快適スペース

- ② ゆとりを感じさせる景観を形成するために、橋梁と接する他の公共施設や民有地との一体的な整備を検討する。



▲溜り空間により、周辺の景観資源（大塔）と水辺への眺望が確保された視点場となっている。【②】

方針①

橋梁、水管橋、送水管の形態・意匠及び色彩は、周辺の景観に配慮し、圧迫感や違和感を与えないよう努める。

✓ チェック 1

周辺の景観と調和する構造とデザインとするよう心がけているか？

形態・意匠

- ① 橋梁等が地域のシンボルとなる場合（主役）は、構造物そのものの機能的な美しさを活かした形態・意匠、色彩とする。
- ② 橋梁等の存在を強調せず、周囲に馴染ませる場合（脇役）は、シンプルな形態・意匠、落ち着いた色彩とし、過度な装飾は避ける。
- ③ 水管橋や送水管は、無機質な印象を与えやすいため、周辺と調和した形態・意匠、色彩とする。



▲落ち着いた色のある桁の色が周辺の緑と調和している。【②】



▲構造部の曲線を活かしたシンプルなデザインがやわらかい印象を与えている。【①】



▲桁から高欄まで木材で統一され、石積擁壁と調和した落ち着いた景観をつくり出している。【②】

付属構造物

- ④ 高欄等の付属構造物は、橋梁の本体構造と調和する形態・意匠、色彩を心がける。



▲地覆から高欄まで一体的なデザインで統一されている。【④】

付属設備

- ⑤ 橋梁に共架する送水管、電線管などの付属物、設備機器は目立たないように工夫する。
 - 排水管や電気ケーブルは桁側面や橋脚に組み込み、設備機器は障壁等で遮へいする。



▲排水管を桁下に隠して、目立たない工夫がされている。【⑤】



▲橋梁に付属する送水管がルーバーで遮へいされている。【⑤】

✓ チェック 2

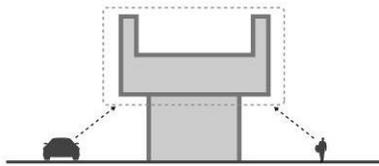
圧迫感や鈍重な印象を軽減するためのデザインの工夫をしているか？

桁・橋脚

① 周辺に圧迫感を与えやすい橋梁等は、その印象を和らげるよう、桁高の見せ方や形状を工夫する。

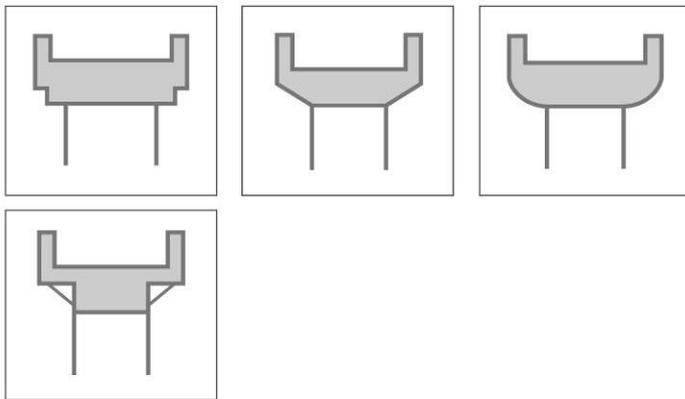
- ▶ 桁側面の処理の隅切りや面取り、スリット等の工夫や陰影により圧迫感の軽減を図る。

■ 桁の圧迫感軽減の配慮例



▲ 桁と橋脚を柔らかい曲線の仕上げとし、圧迫感の軽減が図られている。【①】

桁の面取りの例示



▲ 橋脚と桁の接合部を曲線的な仕上げとし、圧迫感の軽減に配慮されている。【①】

MEMO

■ 橋脚の圧迫感軽減の配慮例

(引用：「道路構造物景観設計ハンドブック」/H2 道路環境研究所)

手法	正面形状	効果など
基本形状		—
面取りを行う		<ul style="list-style-type: none"> • コーナーの面取りを大きくしたり、面取りの形状を変えることによってスリムな感じを与える。
スリットやストライプを入れる		<ul style="list-style-type: none"> • 縦のスリットやストライプを設ける事に寄りたての方向を強調し、スリムな感じを与える。化粧型枠を用いて質感を変える事によって効果を強調できる。
橋脚上下で大きさを変化させる		<ul style="list-style-type: none"> • 上から下に向かって細く絞った形は、一般的にすっきりとしたスリムな感じを与える。
組み合わせ事例		<ul style="list-style-type: none"> • 様々な手法を組み合わせによって、さらにスリムな感じを与える事も可能となる。
梁と柱の幅		<ul style="list-style-type: none"> • 梁と柱の幅を変える事によって、梁と柱の質感が変わる



▲ 圧迫感を軽減するため、橋脚の面取りやスリット加工の工夫がされている。【①】



▲ Y型の橋脚により、橋下空間がすっきりとした印象となっている。【①】

見通し確保

- ② 高架橋はできるだけ背景への見通しを阻害しないような構造形式の採用を検討する。



▲ 桁の形状をアーチ状とすることで、背景への見通しに配慮されている。【②】



▲ 歩道橋下のスペースにベンチや植栽を設け、休憩スペースとして活用している。【②】

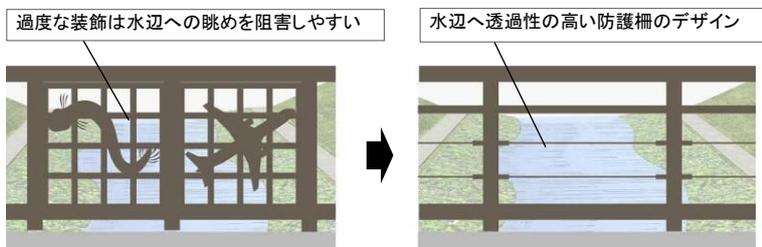
橋下空間

- ③ 高架橋下の空間を有効活用できないか検討する。
▶ 休憩スペースや駐車場・駐輪場、公園、緑道等に活用する。

✓ チェック3 橋梁から良好な景観が得られる場合は、視点の場としての役割を考慮しているか？

高欄

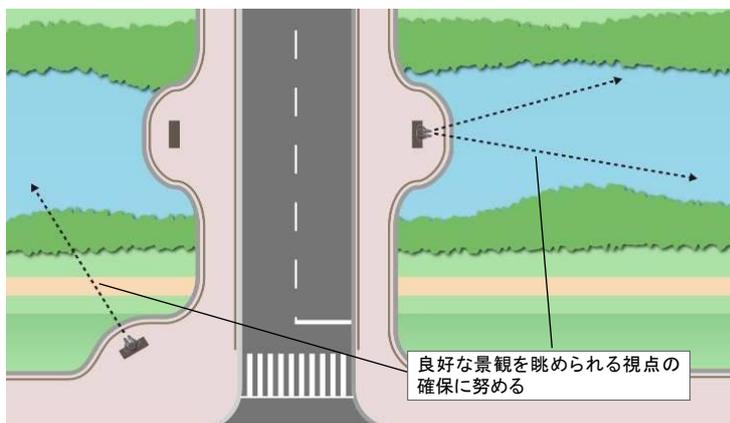
- ① 水辺への眺めを阻害しないよう、シンプルで透過性の高い高欄のデザインとする。



▲ 水辺への見通しを阻害しないよう透過性のある防護柵が設置されている。【①】

視点の場の確保

- ② 良好な景観を眺められる場合は、アルコーブや橋詰広場等を整備することにより、視点の場の確保に努める。



▲ 河川へ良好な眺望となる場所を広げ、視点の場となっている。【②】

